うたう
おどる
あそぶ
tam tam dot

メンバーの魅力が伝播するtam tam dot

「丸じゃなくてもいい。不恰好でも、不ぞろいでもいい。ひとつひとつ、ひとりひとりの『まる』が集まってリズムを生み、やがてそれは世界にひとつのtam tam dotになる」。これは、tam tam dot立ち上げ時のコンセプトです。立ち上げから3年が経った現在、メンバーの個性と工賃向上を目指した商品開発が絶妙にマッチしたブランドは、県内外で取り扱われています。重度の障害のあるメンバーでも、自己表現と自立につながる作業に取り組むことができる仕組みが、うまく構築されたのです。

王道の食品製造ではなく、あえて表現活動から生まれるクラフトグッズ製作で工賃アップにつなげるというチャレンジは、そのほかにもさまざまな効果を生み出しています。たとえば、メンバーの描いた絵をモチーフにいかした手ぬぐいなど、地元の企業とともに新商品を開発。またtam tam dotの商品を販売することで、ほかの団体や企業からも声がかかるようになりました。音楽イベントのチラシや、商品パッケージのイラストを依頼されるなど、コンセプトに惹かれたという人びとからの仕事も増え、メンバーの自信につながっています。仙台市内で最安の工賃だった作業所が、今では他の福祉施設関係者から「これからはtam tamの時代だな」と声をかけられるほどに成長したのです。

たとえ重度の障害があっても、一人ひとりの個性と表現力をいかせば自立につながる商品を生み出すことができると証明したtam tam dot。「仕事」と「個性」を結びつけたブランドの今後に期待が集まります。